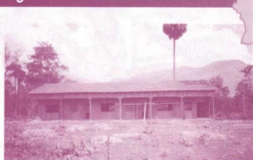


## カンボジア教育プロジェクト

5



昨年の実施では完成したチレウの学校



カンボジアの教育プロジェクト

## カンボジアワークキャンプ参加者募集

コンボンスプーは、30年の戦いの結果、一つの学校も存在しない国があるほどに放置されています。省の調査では、五人の学齢期児童が小学校にゆけず、省には資金もなく何の手立てもなされていません。昨年から数年の計画で、村びとの労働奉仕により安価な手作り小学校を3つの地域に3校つくり、先生を訓練するプロジェクトを実施しています。

●期 間：2000年2月1日(月)～3月4日(土)

●訪問地：カンボジア

●募集員：8名

●費 用：17万円

この費用は国際航空運賃、訪問地での宿泊、食費、旅行保険などのプログラム費です。ただし、日本国内での交通費、パスポート取得費空港税などは含まれません。

●募集対象：健康に自信がある方、未成年の方は親の同意書が必要です。

●申込締切：2000年2月1日

●申込方法：氏名、性別、職業、パスポートの有無、電話番号など記入の上、参加動機を風情海報掲載表に書いて申し込み。申し込み者が定員を越える場合は、2月1日に書類選考を行う。

●申込問合せ先：わかちあいプロジェクト

TEL.03-3634-7809 Fax.03-3634-7808

現地協力団体：ルーテル世界聖職者世界事務会(LWS)、カンボジア事務所

## パレスチナ看護婦派遣プロジェクト

金子純枝さんは、今年4月から看護婦としてアウグスタビルトリア病院で奉仕しています。日本人一人の生活で大変な様子ですが、アラビヤ語を学び、病院から大変喜ばれています。来年3月までの予定で働いてくださいます。

病院側を要け入れに大変に積極的に、彼女の後任を、ぜひ送って欲しいと求められています。

### 金子純枝

外科病棟から内科病棟へ

4月28日以来、外科病棟での奉仕でしたが、8月からは内科病棟に代わりました。その間に、6月から2ヶ月間、実習生として来ていたベッセルハム大学の3年生ワタナツさん(21歳)とはとても仲良くなりました。パレスチナでは看護学生(スタッフケースになるコース)はすべて英語で勉強するのですが、彼女もとても流暢に英語を話しており、時々難しい医療英語を使っても、私には理解できなかつたけれど大変なときもありました。それでも、実習も後半になると、お互いの住所を教えあうまで親しくなり、私が日本で撮ったプリクラを貼って渡すとびっくりしていました。彼女はとてもシャイです。車後のスタッフが男性2名だけということがあったときに、交替時間は午後3時30分ですが、彼女は実習生として午後6時までの勤務のため、彼女と男性スタッフ2名だけになってしまいが嫌で、6時まで一緒にいて欲しいと頼まれてつきあうことになりました。

外科病棟勤務の最終日、婦長のOMS・ハナンが私と実習生のワラッドさんの為におつかいませパーティを開いてくれました。お菓子やケーキ、ジュースを用意してくれたのはとても感謝です。8月2日から内科病棟の働きがスタートし、ここの勤務は9月下旬までの2ヶ月間で、10月に入ると、日本へ一時帰国することになっています。

LWFの長期ボランティアは3ヶ月働くと1週間の休暇をもたえることになっているのです。内科病棟のスタッフは内科看護婦6名、看護士5名の計11名。男性スタッフケース(ボランティア)2名(内1名は週2回勤務)。看護士長のジョーニ氏、主任のイッドさん、ベッド病棟17床、主に

心臓疾患・気管系疾患・脳血管障害などの患者さんが多く、外科病棟と比べるとその年齢はぐっと高いようです。急変した患者さんはICUに麻痺させます。脳血管障害の患者さんは、体の片側に麻痺が残っても2-3週間退院しています。日本では通常リハビリテーションに時間をかけますが、ここでは、リハビリテーション室もなく、理学療法士もいません。パレスチナ側(ガザを除く)には小さなクリニックが3つあり、そこではリハビリテーションを行っているようですが、人口の割合には余りにも少ない設備だと思います。家族の負担も大きいし、残存機能を十分に引き出せずに、自宅に戻る患者さんもおかしいのですが、病院の敷も足りない状況の中では仕方ないのでしょう。こちらの働きに慣れるのに、今まではあまり気が付かなかつた所が見えてきます。パレスチナ側のエルサレムの中の看護レベルは、なかなかいいと言われているのですが、病院は決して良いとは言えない状況です。日本では、まず患者さん一人ひとりに合った看護計画を立てますが、そういう用紙すらないので、プライマリヘルスケアにははるく、機能別看護をするのがやっとという感じですが、日本も戦後から今の状態になるまで長い時間をかけてきた様にパレスチナにも長い時間が必要なのだと思います。



## わかちあいプロジェクト募金

●ケニア、タンザニア難民救援

●カンボジア教育支援

●パレスチナ看護婦派遣、病院支援

●タイ山岳民、エリトリア支援



わかちあいプロジェクトの募金活動

毎月第三火曜日に開催されている例会に、10月19日は珍しくお客様をお迎えしました。

池住義彦さんは長年、東京YMCAおよびアジア保健研修所(AHI)での計30年にわたるNGOの経験を経て、現在は文字どおり「靴一つ」で主にアジアの国々へ、また日本を飛び回っています。私たちがどのような国に出て、ご自分の今までの経験や、ゲームやワークショップなどを開くことによって、まさに「わかちあい」しているのです。

スタッフが育つための一番いい方法は、自分がやること。そのことに基づいて後続の人たちにハンド・オーバー(譲る・渡す)した話には、池住さんなどの様々な関わりにおいてその姿勢が現れていて興味深かったです。

この日は、一つのロールプレイを通してアジアの国々が抱えている色々な問題を、自分の思いだけではなく、相手の立場に立って考えることの大切さ、一緒にやっていると協力という協力があり方をみながら考えることができました。もっと、もっと色々なお話がうかがえたらと思いました。次はぜひ泊まりで研修会を！池住さん、名古屋からわざわざこの日のためにありがとうございます。(沢田寛子)

### お知らせ

●わかちあいプロジェクト例会  
8月を除く毎月3火曜日(午後7時より例会を開催しています。歓迎いたします。どうぞご出席ください。

●わかちあい オンライン！  
わかちあいプロジェクトへの新しい電子メールの宛先とホームページのお知らせです。メールで注文も可能です。  
ページURL: [wp@wakachiai.com](http://wp@wakachiai.com)  
Homepage: <http://www.wakachiai.com>

●カンボジアワークキャンプ参加者募集  
期 間：2000年2月21日(月)～3月4日(土)  
訪 問 地：カンボジア(ノンペン、コンボンスプー)  
募 集 員 員：8名  
費 用：17万円  
募集対象：健康に自信がある方。  
申込締切：2000年2月1日

●東エルサレム派遣ボランティア看護婦募集  
この度、東エルサレムにある、おもにパレスチナ難民に奉仕してきたアウグスタビルトリア病院に協力し、2期の看護婦の派遣を計画しふさわしい方を公募しています。

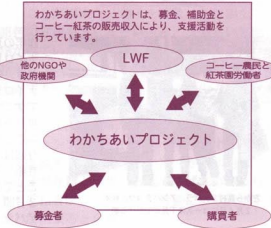
### 募金の目的と目標

- ケニア、タンザニア難民救援  
教育プログラム、古浴料 350万円
- カンボジア教育支援  
小学校の建築費、糊紙生産 250万円
- パレスチナ看護婦派遣、病院支援  
看護婦派遣と研修の研修 200万円
- タイ山岳民、エリトリア支援 100万円

募金目標額 90万円

### 募金の送金先

郵便振替口座  
わかちあいプロジェクト募金  
00130-7-762258



### エルサレムにゲストハウス完成

エルサレムのLWF事務所に、海外からのボランティア、学生のために、短期の訪問者のためのゲストハウスが完成しました。

- 部屋の備品、台所、洗濯機など完備
- オーブリン山にあり安全で景観最高
- 一月350ドル～250ドル

また、青年のための宿泊(60名収容)は、一泊15ドル

- バストイレ付き、朝食付の部屋
- シングル 一泊50ドル
- ダブル 一泊70ドル
- トリプル 一泊95ドル

詳しくは、Tel.(972-0)52-889-708  
Fax.(972-0)628-2628まで英語でお問い合わせください。

発行所 (422000) わかちあいプロジェクト 130-0022 東京都墨田区江東橋5-3-1 電話：03-3634-7809 FAX:03-3634-7808

編集者 松木 保 郵便振替口座： わかちあいプロジェクト募金 00130-7-762258 (募金用)  
わかちあいプロジェクト 00180-6-758331 (代金支払用)